

ドルトンさんの追い入れ継ぎ

2016 12月

イギリス流手工具による追い入れ継ぎです。

この継ぎ手の見どころは、相手板をはめ込む追い入れの溝幅をどのように決め、加工するかです。

普段ほとんど目にしない、めずらしい西洋カンナが登場しました。



まず溝の片方になる位置にナイフでケガキ線を入れます。何度もなぞり、深めの線にしたらノミを当て更に深くしながら、横から不要部を取り除いていきます。徐々に深くなる壁をナイフウォールといいます。

片方ができたらここに相手板をあてがい、もう一方の溝幅位置に印をつけ、スコヤでケガキ線入れます。あとは同様の方法でナイフウォールをつくります。

溝の深さは一定でなければならぬので、ルータープレーンを使って削ります。これは電動工具のルーターの原形となっているカンナです。日本には存在しないカンナのようなのです。ベース面からL字形の刃が出ていて、出る量が溝の深さになります。

